

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90248 (90219)	民族芸術文化学研究A (民族芸術文化学研究B)	2単位 前 (4単位通年)	1~2	講義	鈴木 耕太

※平成 27 年度以降の入学生：「民族芸術文化学研究 A」を登録すること。

※平成 26 年度以前の入学生：「民族芸術文化学研究 B」を登録すること。同一年度内に「民族芸術文化学研究 A」（2 単位）、「民族芸術文化学研究 B」（2 単位）の両方を履修して「民族芸術文化学研究 B」（4 単位）に読み替える。

■テーマ 琉球文学作品の講読と解釈

■授業の概要

琉球文化を表現するものの中から琉球文学について解釈方法を基礎的に学習する。琉球・沖縄の芸術には琉球語が密接に関わり合っており、前近代に至っては近世琉球の文化や、琉球語（とくに組踊・琉歌語）の解釈が必要不可欠である。本講義では、琉球語の表現を知る手だてとして、おもろさうし・琉歌・組踊を中心とし、さらに南島歌謡など基礎的に学ぶ。特に作品の背景にある人々の感情や、詠まれた（創作された）世界を捉え、一首・または一作品ごとに琉球語の読解、解釈、鑑賞を検討していく。なお、講読するおもろさうし・琉歌・組踊・南島歌謡などのジャンルについては、受講生の専門分野を考慮し、受講生と協議の上決定する。

■学習目標

おもろさうし・琉歌・組踊・南島歌謡など一つの作品を正確に解釈できるようになることを目指す。古典琉球語について、用例にあたり、その語が当該作品でどのような意味を担っているかを明らかに出来るようにする。作品一首の解釈・鑑賞へといたる道筋についてその方法を習得し、一首の鑑賞が出来るようになることを最終目標とする。

■授業計画・方法

第1回 琉球文学概説	第9回 テキスト講読「組踊」「執心鐘入」第二場
第2回 琉球文学史概説	第10回 発表と鑑賞「おもろさうし」巻一～巻十二より
第3回 テキスト講読「おもろさうし」 巻一～巻十二を中心に	第11回 発表と鑑賞「おもろさうし」 巻十三～巻二十二より
第4回 テキスト講読「おもろさうし」 巻十三～巻二十二を中心に	第12回 発表と鑑賞「琉歌百控」乾柔節流より
第5回 テキスト講読「琉歌百控」乾柔節流より	第13回 発表と鑑賞「琉歌百控」独節流より
第6回 テキスト講読「琉歌百控」独節流より	第14回 発表と鑑賞「琉歌百控」覧節流より
第7回 テキスト講読「琉歌百控」覧節流より	第15回 本講義のまとめ
第8回 テキスト講読「組踊」「執心鐘入」第一場	※ 定期試験は実施しない。レポートを課す。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修にあたっては、事前に琉球文学の基礎知識、または基礎文献・辞典の活用方法（項目の引き方）などを予習しておくこと。たとえば『沖縄語事典』『沖縄古語大辞典』その他琉球語の辞典などである。また、先行研究として、池宮正治・玉城政美・波照間永吉などの著書をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

■成績評価の方法・基準

通常の授業発表（平常点 50%）に加え、発表態度、発表レポート（50%）を元に評価を決定する。
芸術文化学研究科（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

なし（必要に応じて指示する）

□参考文献

島袋盛敏・翁長俊郎『琉歌全集』（1968年・武蔵野書店）国立国語研究所『沖縄語辞典』（1963年・大蔵省印刷局）
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）
外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）